

令和5年度第1回 燕市図書館協議会 会議録（要旨）

日 時 8月4日（金）午前9時30分～11時00分
会 場 燕市役所 1階会議室 101・102
出席委員 相澤 一徳委員、加藤 一夫委員、木村 久栄委員、幸田 素子委員、
澤田 麗子委員、田中 淳子委員、本間 哉委員、山口 博幸委員
欠席委員 田村 京子委員、柳原 康浩委員
事 務 局 燕市教育委員会 小林教育長、岡部教育次長、石黒社会教育課長、
古澤課長補佐、石村係長、高口主任
指定管理者 加藤館長、山田業務責任者（燕市立図書館）
報道機関 なし
傍 聴 者 なし
議 題 報告
(1)令和4年度図書館利用状況について
(2)令和4年度図書館事業実施状況について
(3)令和4年度蔵書点検報告について
(4)令和5年度図書館事業計画について
協議
(1)第2次燕市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
(2)第3次燕市子ども読書活動推進計画について

[以下、会議録（要旨）]

報告

(1)令和4年度図書館利用状況について

《事務局説明》

○委員

本はどういう基準で購入しているのか。例えば、新刊が入ったら多めに買う、傷んだ本があったら交換するために買う等、具体的な内容を教えてほしい。

○事務局

毎週選書会議を開いており、カタログなどを見ながら選書している。基本的には新刊を買っているが、傷んだ本の買い替えや郷土資料等を検証して購入をしている。

○委員

絵本は大体どのぐらいの割合で購入しているか。

○事務局

昨年度購入した割合の中で計算すると、大体15%くらいとなっている。

(2)令和4年度図書館事業実施状況について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(3)令和4年度蔵書点検報告について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(4)令和5年度図書館事業計画について

《事務局説明》

○委員

分水公民館の読み聞かせは工夫されていた。子供向けの怖いおはなし会だったが、大きな体育館を暗くして読み手だけをライトアップする等、なかなか臨場感が出ていた。今までは小さい会場での読み聞かせ会が多かったので心配していたが、子どもも真剣に聞いてくれて、本当にいい会だった。

○委員

「本と珈琲」のイベントに参加した。非常にコーヒーがおいしくて、1時間では時間が足りないぐらいだった。しかし何故わざわざ中央公民館で行ったのか。

職員によると、図書館では飲食が出来ないためという回答だった。近隣の新しい図書館はほとんど飲食の持込みができる。わざわざ中央公民館に行かなくても、吉田公民館でイベントを実施し吉田図書室へ誘導したほうが、参加者も探しやすい、スタッフも移動する手間も省けると思う。人の巡回ができるような仕組みを御検討いただきたい。

○委員

吉田図書館であった「夜キャンプ」は、相当の混み具合だった。プラネタリウムを見学予定だったものの、混雑で見られず残念だった。吉田図書館と公民館は通路でつながっているので、次回は公民館等を利用してほしい。今回はプラネタリウムを自習室でやっていたのでカーテンが足りておらず、夕方は明るく見えづらかった。

○委員

近くの児童クラブの手伝いをしているが、図書館を利用したことがない子が多い。予算の関係上毎月本を買えないため、児童クラブ同士で本を巡回させることを提案したが、本が傷む恐れがあるため現実的ではないという話だった。何か対応はできないか。

図書館では「つくろう夏休み工作キット」というイベントがあるが、児童クラブの子も参加できないか。夏休みが終わる頃になると手助けしてくれる・アドバイスしてくれる機会が欲しい。

図書館へ移動する手段確保のため市のバスを借りたい。児童の父兄からお金を負担するのは難しいので、夏休み・冬休みのときは、児童クラブに対して何か配慮をしてほしい。

○委員

学校との連携事業の学級文庫パックについて。どの学校も蔵書が少なく買えない状況で、定期的に図書館側から推薦された本が来るのは非常に助かる。今後も継続していただきたい。

○委員

中学校に自分の子どもが通っている。ぜひ中学校に通う子どもにも電子図書館を使用できるように学校に赴いて説明してほしい。

○委員

電子図書館は子どもにとって身近な存在。子ども食堂を手伝っているが、本当の貧困世帯の子どもは図書館に行くことも出来ない。一方で携帯は必ず持っており、学校から借りている **Chromebook** も使える。そういった貧困世帯にもたくさん本が提供できるように、各小学校へ出向いて、その場で図書カードを作れるよ

うにしてほしい。出来たら **Chromebook** で本が読めるように、現場で指導してもらう時間があるともっとうまくいくのではないか。ぜひご検討をお願いしたい。

協議

(1) 第2次燕市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(2) 第3次燕市子ども読書活動推進計画について

《事務局説明》

○委員

「子どもの読書環境の整備」は非常に重要である。小学校にも昭和の頃からの本が残っているが、古い本はなかなか読まれない。紙の本に囚われることなく、いろいろなメディアでの読書を検討してほしい。学校も読解力向上のために取り組んでいるが、読書が大切ということは共通認識。子どもの読書を推進するには、お金やモノも必要だと思うので、これからの計画策定の際に御配慮いただきたい。

○委員

計画で達成されなかった「市内小中学校における図書館ボランティア数」の件について。今の周知では、ボランティアの数を増やすことは難しい。保護者に PTA 活動の一環としてボランティアや草むしり、図書館の片づけをお願いしても強制力はない。そもそも子ども・PTA の数が目減りしているので達成率を満たすのは難しいのでは。学校の先生を通じて地域の方に対してもっと情報発信を行ってもらい、地域の方をボランティアに募る方法もとらなくてはいけない。保護者だけに頼るのは難しい。

その他

○委員

図書館の来館数が少ないという割にアピールが足りない。例えば、図書館のイベント時にデジタルサイネージ（動くモニター）を置くほか、来場者特典で何かグッズもらえる等、人が集まる工夫が必要だと思う。ホームページをリニューアルした程度では集客につながらない。予算の関係もあるだろうが、もっと工夫が必要だと思う。

○委員

広報つばめの利用の仕方について。8月号のように表紙にマンガで掲載すると注目度が上がるのでは。「武蔵野プレイス」という、東京・武蔵野市にある複合施設の場合、7月1日号の市報の1面が「夏休みの図書館に行こう」だった。いかに武蔵野市が力を入れているかの象徴だと思う。燕市全体で、特に夏休みが始まる7月号はこういう風なやり方で宣伝してほしい。

○委員

近隣の町の図書館が新しくなっている。三条市の複合施設「まちやま」は1周年で、弥彦は6月に「らいわ弥彦」が開館し、来年9月には小千谷市にもできる。燕市の図書館もいいところだけでも真似した方がよい。

夏休みは家族連れも多いので、小さい頃から図書館に親しむ癖がつけば図書館に通う習慣ができると思う。燕市として横断的にやってほしい。

閉会